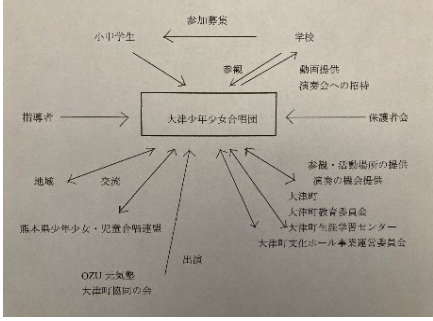


成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	大津少年少女合唱団		
所在地	熊本県菊池郡	設立年	1992年
運営主体	大津少年少女合唱団		
事業目標	○子ども達が自主的に参加し活動していた従来の部活動に代わるものとして、子ども達がこれから生き生きと活動する場を保障する。 ○子どもが所属する学校内のみならず他の学校の子ども達や地域の人々と交流し、他への理解や喜んで地域に貢献する気持ちを養う。		
きっかけ	活動拠点である大津町は高校サッカーを始め、スポーツの盛んな地域であるが、それに比べて文化面への意識が低いことが懸念されていた。それで地域の文化面の向上を目指して少年少女合唱団を設立するに至った。		
団体・組織等の連携	 関係団体 ・大津町・大津町教育委員会 ・大津町文化ホール事業運営委員会 ・熊本県少年少女・児童合唱連盟 ・OZUげんき塾 ・大津町協同の会		
活動場所	大津キリスト教会・大津町文化ホール		
活動概要	・小学生以下は週1回、中高生は週2回、1回2時間の練習を行う。 ・演奏会やイベント等への出演 ・年に一度の定期演奏会の開催 ・訪問演奏及び交流		

○本事業による成果

・前年度の団員数は24名であったが、本事業により新しく11名の団員を迎えることができた。これは町内の全小中学校を訪問して、文化庁から地域文化倶楽部(仮称)に指定されたことを伝えるとともに団員募集を行ったこと、団員による合唱やダンスのYouTube配信、団員が友達を定期演奏会に誘うなどによる成果である。

・団員(中高生)へのアンケートには、全ての団員が、この1年間の活動はとても楽しく、自分を成長することができたことをそれぞれ自分の言葉で書いてくれた。成長の中身は合唱の技術面もあるが、人の前で自分を表現できるようになったことやリーダー力が身についたことなどを上げていた。

・当団は修学前から高校生までという広い年齢層で成り立っていて、合唱団に入っていなければ経験できないいろいろな学校の子ども達と交流することができる。このことについても、団員はアンケートの中で、普段の学校生活では経験できない楽しさがあり、自分にはない考えを知ることができたと答えていた。また、今まで先輩に教えてもらったり助けてもらったりしてきたので、自分もそういう団員になりたいと書いた子が多かった。

・地域との交流に関しては、コロナ禍のために当初予定していた訪問演奏や交流会はできなかったが、定期演奏会に来られた方達やYouTube配信を鑑賞してくださった方達は、大変喜んでくださり、元気をもらえたと言ってくださった。定期演奏会後のアンケート回収率は69%に上り、観客が子ども達の発表に感動し励まされたことが分かる。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・当団は修学前から高校生までと年齢層が広いので、理解や技術の習得に差ができるが、練習の時は小さい子の近くに各パートの中高生が立ち、一緒に歌ったり楽譜を見せたりするようにしている。また、練習後にリーダーと指導者で振り返りの時間をもち、子ども達の様子や課題を共有している。
- ・その時に直接指導しているスタッフ以外は、子ども達の様子を観察し、気になることがあったら別室で話を聞くこともある。また、一人ずつ呼んで声を聞いたり成長の度合いを確かめたりした。
- ・全体練習の他に中高生の練習時間を設け、発声や表現についてさらに深い指導をしている。またその時間に次の全体練習で歌う歌を練習し、中高生が小学生以下に教えることができるようにしている。
- ・様々な事情から練習に参加できなかった団員のために、新しい曲の練習動画を保護者ラインと中高生ラインで配信した。

○運営上の工夫

- ・保護者会を設け、定期演奏会や強化練習などの日程・内容についてはスタッフと保護者役員で協議し決定した。会費も保護者役員が管理を行った。
- ・保護者会を4つのグループに分け、連絡事項は各グループのリーダーが班員に伝えるようにしてきた。イベント等の出欠についてもリーダーが集約し、指導者に連絡するようにしている。
- ・子ども達の練習や本番の様子は随時、ホームページやSNSで発信し、周りへの啓発と子ども達の意欲向上に繋げてきた。
- ・感染症対策には常に気を配り、入室後の消毒と検温、換気、練習場の清掃を行った。また練習時は透明マスクを着用し、並ぶ際の間隔にも注意してきた。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・当合唱団は今年度創立30周年を迎え、その存在は地域に広く知られ実績も認められているので、今後も新入団員を迎え、継続的な運営が可能と思われる。しかし学校以外での活動なので保護者の送迎が不可能な子どもは入団して活動することができない。それが一番の課題であると思われる。
- ・当合唱団に限らず、熊本県全体の課題であるが、文化系の部活動に入部する児童生徒が少なくなっている。県内の各合唱団も団員の減少に悩んでいるところが大半である。子ども達が音楽に触れる機会を増やし、音楽への興味関心を高めることが必要であると思われる。
- ・現在は創立当初からの指導者と卒団生のスタッフによって指導をしているが、これからのことを考えると地域や学校関係者からも定期的に指導に関わる人材を求めている。
- ・現在、町の方針で、当団は文化ホールを使用する際、「減免対象に準ずる」という特典をいただいているが、現状としては年1回の発表会本番だけが減免になり、リハーサルや練習時の使用料は一般の団体と変わらないので、保護者の負担が大きい。定期演奏会の前には数回のリハーサルが必要なので、リハーサル時の使用料についても町に配慮をお願いしたい。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・町内の小学校には以前、音楽部があり、合唱や器楽合奏の活動をしていた。その中から何人かが当合唱団に入団し活動をしているが、更に小学校との連携を深め、部活動に参加していた子ども達の受け皿になっていきたい。
- ・町内の2つの中学校には吹奏楽部があり、熱心な活動が行われている。近い将来、中学校の地域部活動化が進んだ場合、当合唱団が直接的に受け皿になるのは難しいと思われるが、合同の演奏会や研修会などを企画して、町内の子ども達の音楽を愛好する心を育てていきたい。
- ・来年度以降も、今年度のように町内小学校を町生涯学習課の担当者とともに回り、合唱団への周知度を上げ、団員募集を行っていく。
- ・今年度は新型コロナ感染状況の悪化のために、学校関係や町教育委員会などとの話し合いや練習参観の機会を設けることができなかったが、来年度からの実施を検討する。
- ・この3年間、コロナ禍で実現できなかった地域の演奏会への出演を積極的に行い、各学校への案内も出す。また各施設への訪問も積極的に行い、広く交流を深める。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	35名（幼稚園児2名、小学生15名、中学生9名、高校生9名）
	学校名	大津小学校、大津南小学校、菊陽北小学校、白水小学校、大津中学校 大津北中学校、大津高校、熊本北高校、必由館高校、第二高校
	募集方法	・7月に担当者2人で、大津町内の小中学校を訪問し、地域文化倶楽部（仮称）に指定されたことを説明し、団員募集チラシを配った。 ・団員が友達に団員募集チラシを渡したり、定期演奏会に案内したりした。
指導者	人数等	5名（代表は団創立時に依頼を受け、続けて指導してきた。中学校の教員をしていたのでボランティアで関わってきた。他の4名は当団の卒団生。）
	募集方法	募集は特にしていない。
参加者の移動手段		保護者による送迎
活動費用	指導者謝金等	謝金 700円/時間
	その他	大津キリスト教会使用料 1,000円/回 大津町文化ホール使用料 418,170円（1年間） 印刷費（インクカートリッジ・コピー代） 17,077円（1年間）
活動財源	会費	入団費5,000円×1回 年間36,000円（3,000円×12ヶ月）、定期演奏会参加費5,000円×1回
	その他	後援会費57,000円（1年間） 出演謝礼20,000円（10,000円×2回）
スケジュール	基本活動	全体練習 毎週土曜日2時間 中高生練習 毎週木曜日2時間 9月は定期演奏会練習のため、毎週土曜日5時間
	年間	5月 中高生強化練習 6月 ミュージカル配役決定 8月 強化練習 熊本県少年少女・児童合唱祭出演 9月 定期演奏会 卒団生を送る会 12月 クリスマスミニコンサートクリスマス会
保険加入等		スポーツ安全保険（保護者負担700円/年、指導者団負担700円/年）

【活動の様子（写真添付）】



定期演奏会に向けての練習



黙食でのお弁当



定期演奏会 10. 9【第1部】



定期演奏会【第2部】



定期演奏会【第2部】
30周年記念保護者合同演奏



定期演奏会【ミュージカル】



新入団員が入ってからの練習





クリスマスイベントに出演



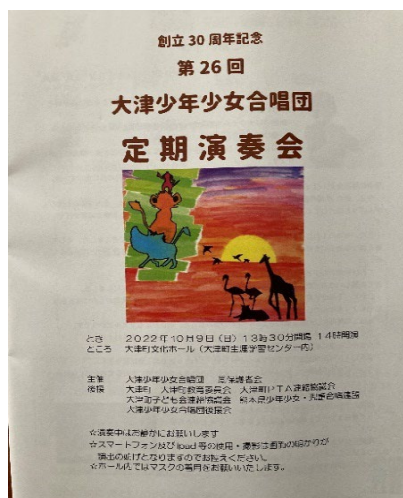
大津町子育てフェスタに出演



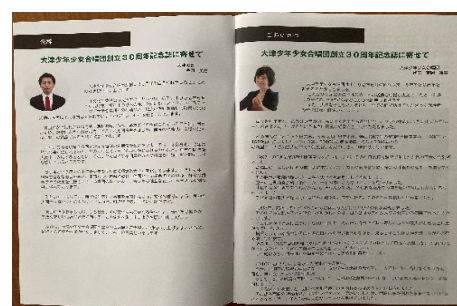
団員募集チラシ



定期演奏会チラシ



定期演奏会パンフレット



創立30周年記念誌